



全消協ニュース

全国消防職員協議会発行／編集責任者 田立 理／東京都千代田区六番町1 自治労会館／☎(03) 3263-0271
ホームページアドレス／<http://zensyokyo.jp/>

全消協第46回定期総会

代議員2000名が ウェブで参集

2022年9月4日、新型コロナウイルス感染症拡大情勢を踏まえ、参集を回避した形態で全国消防職員協議会第46回定期総会を開催し、代議員数249名のうち2000名の仲間がウェブ上で参集した。



経緯について伺いたい。

各単協から役員として選出しているが、全消協からの交付金を役員個人へ支出する場合、支出項目がなく、予備費から支出している。今後このような交付金が個人にある場合は、単協をとおさず、役員へ直接交付してもらおうように対応できないか。

【回答】

ウェブ資機材購入費の支出については、社会情勢上これまでのように参集しての幹事会等が困難となりウェブを活用した会議棟が増えてきました。

受け取る形としました。

この度の交付方法については、単協でも予算計上している事業ではなく、支出するために苦慮されたことと思います。

今後は役員改定年度ごと、各役員がパソコン等を購入した領収書等を提出することにより上限10万円を支出しますが、支給方法については幹事会で検討していきたいと思えます。

●役員選挙委員会報告

遠藤貴幸 役員選挙委員会委員長

2023年度役員選挙報告が行われ、e投票システムにて代議員による信任を得て承認された。

【2023年度役員体制】

会長 須藤洋典 高松市消防職員協議会(香川県)

副会長 佐藤昭徳 延岡市消防職員協議会(宮崎県)

副会長 小野英一 釧路市消防職員協議会(北海道)

事務局長 田立理 越谷市消防職員協議会(埼玉県)

事務局長次長 吉村大作 指宿南九州消防職員協議会(鹿児島県)

事務局次長 川北研人 四日市市消防職員協議会(三重県)

北海道ブロック幹事 長谷川亜純 函館市消防職員協議会(北海道)

東北ブロック幹事 石黒和久

新潟市消防職員協議会(新潟県)

関東甲ブロック幹事 櫻木圭

草加八潮消防職員協議会(埼玉県)

北信ブロック幹事 斉藤好太郎

上田消防職員協議会(長野県)

東海ブロック幹事 右門秀敏

松阪地区広域消防組合消防職員協議会(三重県)

近畿ブロック幹事 長谷部寛

交野市消防職員協議会(大阪府)

中国ブロック幹事 西尾基貴

尾道消防職員協議会(広島県)

四国ブロック幹事 山端孝高

松市消防職員協議会(香川県)

九州ブロック幹事 岡大祐 佐伯市消防職員協議会(大分県)

女性連絡会代表 吉永紗弓 佐賀広域消防職員協議会(佐賀県)

UIス部代表 永柴勝久 鳴門市消防職員協議会(徳島県)

特別幹事 斉藤英之 須坂市消防職員協議会(長野県)

特別幹事 竹内洋司 四日市市消防職員協議会(三重県)

特別幹事 村上直樹(春日・大野城・那珂川消防行政研究会(福岡県))

会計監査 高橋博美 伊達地方消防組合職員協議会(福島県)

会計監査 國久淳平 高知市消防職員協議会(高知県)

議長団選出

北海道ブロック苦小牧消防職員協議会から須藤悟氏、関東甲ブロック小田原市消防職員協議会から遠山孝志氏を議長に選出し、議事進行を務めていただいた。

須藤洋典会長挨拶

来賓挨拶

自治労本部総合組織局長 藤森久次様

参議院議員 鬼木まこと様

2022年度活動経過報告 田立理事務局長

女性連絡会活動経過報告 吉永紗弓女性連絡会代表

UIス部活動経過報告 永柴勝久UIス部代表

2022年度会計決算報告 小野英一副会長

●2022年度会計監査報告

竹本典孝会計監査が行われ、質疑・討論の後、e投票システムにて賛成過半数をもって可決・承認された。

午後からは2023-2024年度活動方針案

佐藤昭徳副会長

2023年度予算案

小野英一副会長

出席代議員1名から事前質問があり、質疑を行った。

【質問内容】

佐賀広域消防職員協議会

今年度、ウェブ会議資機材購入費を全消協役員に交付されているが、支出方法として各単協へ交付され、各単協から役員へ支出することとなった。この方法をとった

新潟市消防職員協議会(新潟県)

関東甲ブロック幹事 櫻木圭

草加八潮消防職員協議会(埼玉県)

北信ブロック幹事 斉藤好太郎

上田消防職員協議会(長野県)

東海ブロック幹事 右門秀敏

松阪地区広域消防組合消防職員協議会(三重県)

近畿ブロック幹事 長谷部寛

交野市消防職員協議会(大阪府)

中国ブロック幹事 西尾基貴

尾道消防職員協議会(広島県)

四国ブロック幹事 山端孝高

松市消防職員協議会(香川県)

九州ブロック幹事 岡大祐 佐伯市消防職員協議会(大分県)

女性連絡会代表 吉永紗弓 佐賀広域消防職員協議会(佐賀県)

UIス部代表 永柴勝久 鳴門市消防職員協議会(徳島県)

特別幹事 斉藤英之 須坂市消防職員協議会(長野県)

特別幹事 竹内洋司 四日市市消防職員協議会(三重県)

特別幹事 村上直樹(春日・大野城・那珂川消防行政研究会(福岡県))

会計監査 高橋博美 伊達地方消防組合職員協議会(福島県)

会計監査 國久淳平 高知市消防職員協議会(高知県)

PSIIと 国内の活動について

PSIIとは、国際公務労連のことを言い、世界150か国以上で重要な公共サービスに携わる女性と男性2000万人以上を代表する世界的労働組合連盟である。

PSIIのメンバーは、社会サービス、ヘルスケア、自治体業務、中央政府、水や電気などの公益事業に携わっている。

全消協がPSIIに加入し、活動を行っている理由として、国内への働きかけのみでは団結権の回復や日本政府が団結権の代償措置との見解を示している消防職員委員会制度を変えることには限界があると考えるからである。国外の意見を活用することで、より国内の活動を活発にしたいと考えている。

直近では、2018年5月から開催された第107回ILO総会において、日本における消防職員の団結権問題が審議された。その際に他国政府代表からも日本政府に対する厳しい意見が出され、消防職員委員会制度の不備についても言及された。これにより、消防職員委員会の運用方針の改正や労働者側との定期的な意見交換の場を持つと日本政府が提起することとなった。この時に実施されたのが、消防職員委員会制度の一部改正、自治労と全消協役員を含めた定期交渉へと繋がっている。

国際連帯活動は、取り組んだ結果が直接表に出にくい部分が多い。しかし、国内だけで意見を伝えても変わらなかったことが、PSIIを通じて前進している。今後も、PSIIを通じて日本政府へ消防職場の現状や課題、団結権の回復を目指した活動を継続していきたいと考える。

総務省消防庁に対し

「消防行政の充実強化 に関する要望書」を提出

2022年7月29日、総務省消防庁に対し、2022年度2回目となる「消防行政の充実強化に関する要望書」を提出した。

消防庁からは前田消防庁長官が出席、全消協からは新型コロナウイルスの感染予防の観点から出席者数を制限し、須藤洋典会長、田立理事務局長の2名が出席した。また自治労からは青木総合組織局長、自治労消防政策議員懇談会から岸まさこ議員も同席した。

消防庁長官が異動に伴い前田消防庁長官になったことから、あいさつを実施。その後門前消防・救急課長と要望書を交わし、岸まさこ議員、青木総合組織局長、須藤会長があいさつ後、消防職員の現状について訴えた。

要望書の内容は次の7項目

- ① 消防行政の充実と労働安全衛生体制の構築について
- ② 新型コロナウイルス感染症対策について
- ③ 緊急消防援助活動等について
- ④ 働きやすい職場環境の整備について
- ⑤ 広域化について
- ⑥ その他労働条件に関する事項について
- ⑦ 消防職員との協議の継続・推進について

その中でも現状を踏まえ、②新型コロナウイルス感染症対策について、④働きやすい職



場環境の整備について、⑥その他労働条件に関する事項について、⑦消防職員との協議の継続・推進についての4項目について重点的に意見交換を実施した。

要望書に対する総務省消防庁からの回答を得るだけでなく、意見交換の時間を多くとったことで、有意義な活動となった。

総務省消防庁への要請行動は、基本的には年に二度しか機会のない大切な取り組みであり、「全消協」という組織に結集した全国の会員の意見を政府に直接届けることができる、大変意義のある活動である。

第1回厚生労働省との意見交換会を実施



2022年9月5日(月)14時15時にかけて厚生労働省医政局地域医療計画課との意見交換を行った。現在のひっ迫した救急体制がある中で、総務省消防庁に対してだけでなく厚生労働省にも現状伝える必要性があることから、今回初めて実施したもの。消防政策議員懇談会の逢坂誠二衆議院議員、岸まさこ参議院議員、自治労の協力の下、「消防をとりまく救急医療体制の課題と対策」について意見を交わした。取り上げた課題については、①新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う現状の課題について、②現状の課題から考えられる対応策についての2点、消防における救急の現状を伝え、現場の意見を伝えることができた。

今回をきっかけとし、今後も継続的に同様の場を設けるよう要請し、意見交換を終了した。

今後も消防政策議員懇や自治労の協力を得ながら、活動を継続していきたい。

北海道・中国・東海ブロック合同学習会

2022年6月24日(金)、Zoomにて合同学習会を実施し、66単協、2消防本部、約200名が参加した。

学習会冒頭「AI技術によるドローン活用について」と題して元深谷市消防長、現棟アームレスキュー代表取締役の田中章氏から講演が行われた。現在のドローンの開発状況から、消防救助活動にどのようにドローンを活かすか、さらには日々進化

するAI技術を取り入れることができるか、どのような活動が可能となるかについて講義をいただいた。続いてドローンの活用事例について、釧路東部消防職員協議会の八木俊久さん、鳴門市消防職員協議会(全消協ユース部代

表)の永楽勝久さん、杵藤地区消防職員協議会の橋口晃幸さんから、火災・水難・捜索活動のほか、原因調査、訓練、SNSの広報など、幅広くドローンを活用していることが発表された。ドローンの活用については、現場活動に大きく寄与するとされ

安全管理面でも多くのメリットが得られることがわかった。迅速安全な現場活動により、怪我を防ぎ、殉職者を出さないことが皆が目指しているところで、その一翼を担う資機材であると感じた。Zoomを用いることで、より幅広く、多くの情報を容易に手に入れることができるメリットがある半面、長時間に渡って画面を見続けることは難しく、今回はグループワークを開催しなかった。一方、各ブロックや単協の判断で参集するところも少しずつ増え、Zoomと参集を併用しながらの開催ができる



ようになってきた。コロナ禍での研修会等の開催方法を模索し続け、2年が経過し、少しずつ

参集とウェブ双方のメリットを活かしながらの開催ができるようになってきたと感じている。

参加とウェブ双方のメリットを活かしながらの開催ができるようになってきたと感じている。

半鐘のそと

「小学校低学年での授業では、シャープペンシルが使用されていない理由を知っていますか？」

これは先日、全消協須藤会長から教えていただいた話である。確かに、私が通っていた母校では、通学していた当時も令和となった現在もシャープペンシルは使用されていない。

「それは、シャープペンを使用すると授業中分解する生徒が増え、授業に集中できなくなるからです。」

諸説あるとのことでしたが、すくなく納得した。やはり会長は続けて、

「では、これを協議会に当てるはめるとどうでしょう？ 授業は消防職場環境の改善や民生的運営・市民サービスの向上を求める活動であり、

シャープペンシルはレクリエーションや懇親会ではないでしょうか？」

近年のコロナ禍から、協議会の必要性を感じない・活動が停滞しているなど指摘をいただくことが増えた。まさに、この話と通ずる部分があると感じた。過去、私もこの任を引き受ける以前は単協会員として、シャープペンシルを分解する楽しさには目を向けておらず、授業の意味をよく理解していなかったように思う。

しかし、活動を進めていくと、全消協役員として授業の大切さを非常に感じている。終わりが見えないコロナ禍、異常気象に伴い多発する自然災害、さらには定年年齢の引上げも迎え、災害が複雑多様化するばかりでなく、市民サービスに直結する災害対応者の高齢化が懸念され、

若年層職員の負担が増すことが想定されている。定年年齢の引上げに該当する職員と若年層職員

が共に働きやすい制度とするためにも、全消協ユース部内でしっかりと議論し、全消協幹事会の場で提起したいと考えている。

一方、シャープペンシルも必要事項であると考えている。共に寝食を一緒にする仲間との懇親や普段触れ合うことのない他ブロックの会員との交流等、ウェブ体制も整った今、次世代にあったシャープペンシルの使用方法も検討する必要があると感じている。

私はユース部代表として、PS-JJCユースStep Upセミナーの企画運営に携わっている。その責任として、ユース会員の皆様へ質の高い授業が提供できるよう、全消協ユース部の最高な仲間たちとさらに思考錯誤し、セミナーをStep Upしていきたいと思う。

永楽勝久
(ユース部代表、鳴門市消防職員協議会)

全消協ではホームページのほか、Facebook・Twitter・Instagramを開設しています!



今後の予定

2022年12月16日 第53回労働講座
ハイブリッド(ウェブ・参集併用)開催 東京都